

鉄馬  
インプレ  
2007

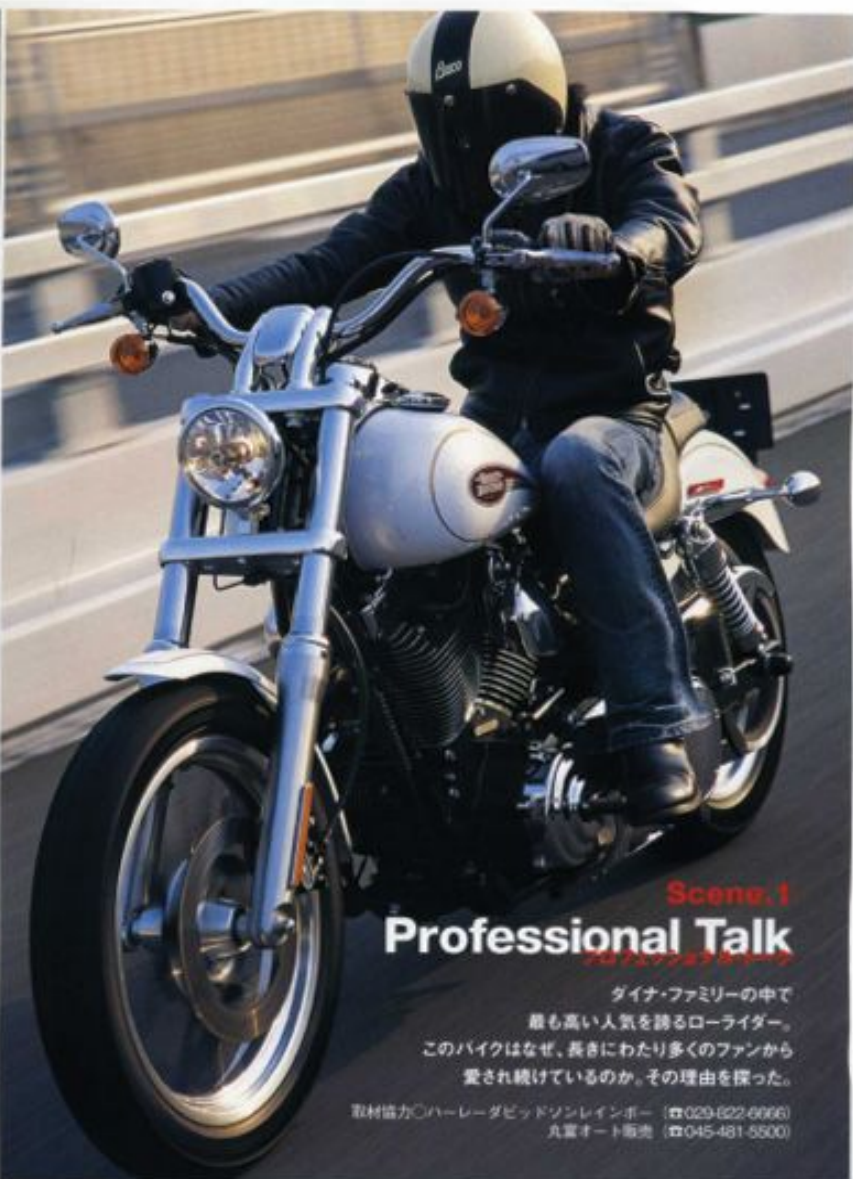
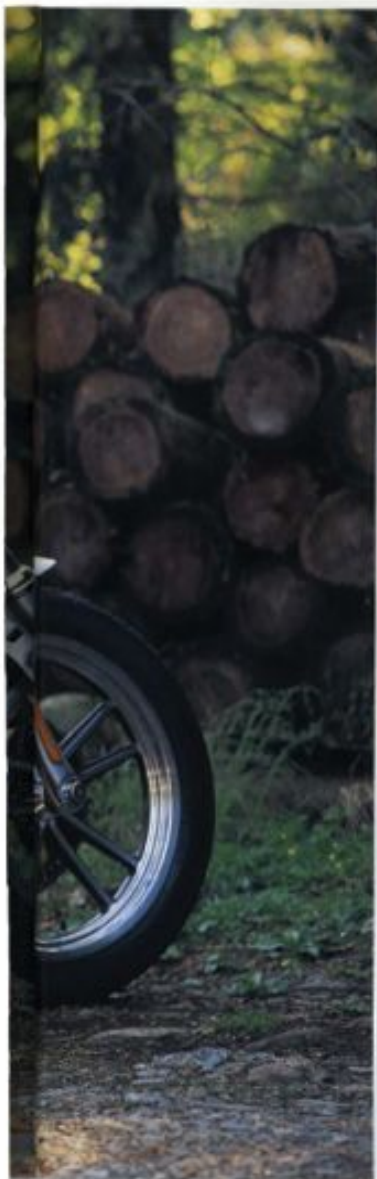
# FXDL

## ダイナ・ローライダー

ハーレー・ダビッドソンの現行ラインナップの中から、  
注目の車種にスポットを当てるこの企画。  
今回登場するのは、ショベル・ヘッド時代にデビューし、  
今も多くのファンに厚く支持される、FXDLダイナ・ローライダー。  
30年前から変わらぬグラマラスなフォルムと、  
時代とともに確実な進化を遂げた、高い運動性能にクローズ・アップする。

文〇前田成彦 Text : Nanahiko Maeda  
写真〇鉄田豊裕 Photos : Zenita





Scene.1  
**Professional Talk**  
プロフェッショナル

ダイナ・ファミリーの中で  
 最も高い人気を誇るローライダー。  
 このバイクはなぜ、長きにわたり多くのファンから  
 愛され続けているのか。その理由を探った。

取材協力○ハーレーダビッドソンレインボー (☎029-622-6066)  
 丸富オート販売 (☎045-481-5500)

天田 ローライダーが初めて登場したのは、ショベル・ヘッド時代の77年のこと。もともと70年代までのビッグ・ツインはF1しかなかったのですが、71年にFXが登場します。F1にスポーツスター（XL）のフロントまわりを移植したモデルなのですが、このFXをベースにドラッグ・レーサーをイメージさせる斬新なカスタマイズを加えたモデルが、FXSローライダー。当時としてはすごいインパクトだったんです。その後エンジンやフレームなどにさまざまな改良が加えられつつ、現

今回のプロフェッショナル ●

ハーレーダビッドソンレインボー  
 天田昭治さん

ローライダー・カスタムの第一人者。完成度の高いコンプリート車両を製作



今回は、「ハーレーダビッドソンレインボー」の天田昭治さん（白下、天田）と、「丸富オート販売」の江原孝さん（以下、江原）に、ローライダーの魅力と、注目ポイントについてうかがってみました。  
 — このモデルは、単なるダイナグライド・ファミリーのフラッグシップ・モデルにとどまらず、「ハーレー」に乗るならローライダー」と言う人もいるほど、幅広い層のファンから支持されています。このモデルの歴史、そして長年にわたり愛され続けている理由について教えてください。



「『ツーリングする』より  
『旅に出かける』という言葉が  
似合うバイクだね」



ロールですから、ライディング・ポジションもオーソドックス。例えばフォワード・コントロールのFXS系ソフテイルなどと比べて、抵抗なく入れる。乗りやすさに魅力を感じているオーナーさんも多いです。

天田 このモデルならではの雰囲気があると思います。「ローライダー」という名前にはアメリカを、そして自由を感じさせるイメージがある。要は「イージー・ライダー」や「ハーレーダビッドソン&マルボロマン」といった映画の世界ですよ。実際に映画で使われたバイクは違いま

◆ 中国のプロフェッショナル ◆

丸富オート販売  
江原学さん  
幅広い知識でカスタム、メンテナ  
ンスをしっかりとサポートしてくれ  
る



行モデルにもFXSがもつエッセンスは確実に受け継がれています。

江原 30年間も支持され続けている理由の一つが、変わらないスタイル。アメリカの乗り物の定番ともいえるロー&ロングのフォルムを頑なに継承しているところでしょうね。

それと扱いやすさ。新規の方も買い替えの方も、ハーレーの購入を考えた時、ほとんどの方が候補にするモデルだと思っんです。ビッグ・ツインの中では重量もそれほどないし、ローダウン・サスを使っているので足つきもいい。またミッド・コント

## 決して色あせることない、憧れのスタイル

## FXDL

■全長2350mm 全幅920mm 全高1195mm  
 ホイールベース1625mm 最低地上高142mm  
 荷重時シート高655mm レイク/トール29.0/114.3mm 車両重量305kg

■エンジン形式 ツインカム96 (インジェクション) 1584cc ボア×ストローク 95.3×111.1mm 圧縮比9.2 最大トルク 113Nm/2750rpm

■減速比 コンスタントメッシュ 6速 3.34/2.30/1.72/1.41/1.17/1.00

■燃費 ハイウェイ 22.7km/l 市街地 18.9km/l 燃料タンク容量 17.80ℓ

■ブレーキ F: シングル・ディスク R: シングル・ディスク

■タイヤ、ホイール F: 100/90-19キャスト R: 100/70-17キャスト

■価格 (税込み) 203.5万円 (モノトーン)、208.6万円 (ツートーン)



すが、現行モデルでの自由なイメージに一番ぴったり合っているのがローライダーでは? 「ツーリング」ではなく、「旅をする」。このバイクには、そんな言葉がしっくりくる。江原 ローライダーは、アクティブに乗り回したい人に特にふさわしいと思います。どちらかというとソフテイルは、エンジンにバランスが付いているため振動が少なく、ゆつたりとしたポジションで乗るモデルが多いですよ。でもダイナは、エンジンがラバーを介してフレームにマウントされていて、独特の力強い振動がある。アクセルをひねった途端、強大なトルクに体をもつていられるような荒々しさを感ずることができるとは。天田 クローム・パーツをたくさん使っているんで、FXDなどと比べて独特のゴージャス感もありますね。江原 実はクローム・パーツが多いと、ラフに使ってもそれほど汚れが目立たない。ガンガン使っても汚くなくてもサマになるんですよ。(笑)

——ところでこのモデルを始めとするダイナグライド・ファミリィは、06モデルでフレームが新設計され、フロントのレイク角が変わり、フォークはこれまでのスポーツスターとの共用から専用設計のものになりました。さらに6速ミッションが採用されるなど、06モデルで生まれ変わったというわけですが、07モデルについてはその流れを踏襲しつつ、エンジンのストロークがアップしています。現行モデルについてはどのような





### 専用設計のフォーク

昨年度より導入された49mm径のフロント・フォーク。見た目よく剛性も高い



### オーソドックスな形の手元

ライザーで手前を持ち上げたハンドル。ブレーキのタッチは大幅に軽くなった



### 伝統的スタイルのタンク

ファット・ボブ・タンク上部のコンソールには、速度計と回転計が上下に並ぶ



まばゆいクロームの質感  
07モデルより採用のツインカム96の排気量は1584cc。ミッドレンジは6速



### ホールド感バッチリ

シートは前後部分が深くえぐれ、腰をしっかりとホールド。もちろん見た目も○



### 歯切れのいいサウンド

マフラーは、オーソドックスな2in2タイプ。エキゾースト・ノーツは実に軽快



### 人気のキャストホイール

フロント・ホイールは10本キャスト。ブレーキはシングル・ディスク



足つき性もバッチリ  
標準装備のショート・サスペンションが足つき性のよさに貢献している



### 迫力のリアビュー

160mmのリア・タイヤが、迫力ある後ろ姿を作り出す。ファイナル・ドライブはベルト



### カラーバリエーション

1. ビビッドブラック
2. ブラックパール
3. ファイアーレッドパール
4. ディープコバルトパール
5. パシフィックブルーパール
6. ビューターパール
7. ホワイト
8. スウェードブルーパール&ビビッドブラック
9. ファイアーレッド
10. ディープコバルトパール&ビューターパール

## 時代を超えて愛されるローライダーの系譜



### '99 FXDL

さらなる高速巡航を可能にすべくツインカム88を新採用。伝統のフォルムを葆もつつ、性能は格段にアップ



### '97 FXDL

ダイナグライド・フレームを新採用したダイナ・ローライダー。エンジンは1340ccのエボリューション



### '91 FXRS

フレームのシート下部分が三角形になっているのが特徴。スポーツ、コンバーチブルなどのモデルも派生



### '77 FXS

77年にデビューした初代ローライダー。ファクトリー・カスタムの最高傑作との呼び声が高い

な印象をおもちですか？  
天田 ツインカム96になって、明確にトルク感が増したね。今までビッグ・ツインがもっていた鼓動感がさらに強調され、いい仕上がりになっています。6速ミッドレンジについても、乗りやすさを考えて設定したギア比だと思います。  
江原 インジエクションのよさは認められつつありますね。キャブレターのころにあった始動時の煩わしさは、いまやまったくありませんから。天田 特にローライダーは以前と比べ、格段にハンドリングがよくなったと思います。16モデル以前は、トルクの側にはサスペンションのストローク量が大きくて、少々ムダな動きもあつたと思うんです。でも今はそれが抑えられて、本当に「いい仕事をしてくる」。フォークになつたと思います。それは単に太くなつたということだけではなく、減衰性とストローク量のバランスがよい具合に取れているんじゃないかな。  
江原 乗って楽しいということが、10年間モノ作りをしているメーカーの譲れない部分なのではないでしょうか。いい意味で変わらないというのがハリーレーの魅力ですが、時代に応じてしっかりと進化を遂げているのも確かです。その中でもローライダーは、ビッグ・ツインの単一モデルとしては最も長い歴史がある。変わらないこととよさと、変わることをよきと、その両方を一番顕著に感じさせてくれる。ローライダーとは、そんなモデルなのだと思います。

## Scene.2 Owner's Iron-Horse

カスタム・サンプルズ

ここでは、人気のローライダーを  
自分なりにアレンジしたカスタム車両を紹介しよう。

写真◎長野浩之 Photos: Nagano  
取材協力◎ハーレーダビッドソンレインボウ (☎029-822-6666)

# 「雑誌で見て憧れた 初代ローライダーの フォームを再現しました」

’02FXDL 大國英彦さん



当時を思わせるフォームが、フレーム、エンジンなどは確実な進化を遂げつつも、基本的な形が30年前から変わっていないことを証明する

語るのは、オーナーの大國英彦さん。愛車のルックスは、まさに往年の名モデルそのものだが、施したカスタムはベイントやシート交換、ウインカーの取り付け位置の変更など、それほど手の込んだものではない。「もちろんフレームもエンジンも30年前とは別物ですが、細部を換えてあげるだけで、ノーマルから大きく形を変えることなく、当時の雰囲気を出すことができます」と天田さん。そんな愛車で、オーナーはしばしば奥さんとタンデム・ツーリングを楽しんでいるそうだ。

「当時のモデルと間違えられ「きれいに乗ってるね」と話しかけられます」と語るオーナーの大國英彦さん



今も多くの人に支持される初代ローライダー。「ハーレーダビッドソンレインボウ」は、この憧れのモデルをモチーフにしたコンプリート・カスタム車両の製作で名高い。「基本的に自分が乗りたいバイクを作っているだけなんですけれどね」とは、前ページにも登場いただいた天田昭治さん。こちらの車両も同店が4年前に手がけたものだ。「雑誌でカッコいいなと思ったんです。でも、実際の車両は旧いし故障の不安がある。それなら思い切った新車を同じ感じにしよう」と





当時とまったく同じシルバーのカスタム・ペイントを施したタンク。デカルももちろん、当時と同じデザインに



フロントの目を引くポイントが、ワンオフ製作したトリム・カバー。また、ウインカーも昔と同じ位置に移植してある



タンデム走行での快適性を考え、純正のシーシー・バーを装備。「スタイルに合ったものを探すのは結構苦労しました」



シートをFXD用にリプレイスしている。「タンデムで走るので、パッセンジャー部分がフラットなものを選びました」



ジンギース製のタイマー・カバーを装着している。クラシカルなスタイリングには、ディテールまでこだわった



この02モデルには、もともとスポーク・ホイールが標準装備されていた。そこで7年ぶりに合わせ、純正のキャスト・ホイールにリプレイス



ルックスはまさに往年の77FXS。ただし、このマフラーは現在取り扱っていない



外装に大きく手を加えず、当時のフォームを作り出した。ただし細部には多くのコダワリが…